

TCA
—NEWS—

Vol.28 春号

発行
富山市民国際交流協会
広報委員会

〒930-0085 富山市丸の内1丁目4番50号
富山市国際交流センター(市図書館1階)内
TEL (076)442-1109 FAX (076)442-3807
発行責任者 広報委員会委員長 岡田昌代



青々とした燕山山脈を仰ぎみる燕塞湖

人々の心を癒す

燕塞湖

燕塞湖は、原名を石河といい山海関城の西北3.3キロ離れた草木の中にある。湖は、燕山山脈の山なみと谷間にうねって南北の全長は15キロあり、その河床は大きく栗石もたくさんある。6.5平方キロの湖面は、鏡のように平らで、月のように明るく、透明な湖水に周りの断崖絶壁の青々とした色を映している。

湖の中心の孤峰と崖のそばの奇石は、盆栽を観るようでもあり、石林にも似ている。「小桂林」「小三峡」の称もあり、風景それぞれにとても味わい深い意味をもつ名称がたくさんある。

まるで、北国の辺境地に嵌め込まれている夜光玉のような燕塞湖は、寺社などに祈る習慣を持たない人々の心を受け入れて癒し、やすらぎを与える。

会員募集

広げよう友情の輪

2000年 新春 国際交流のつどい

と き 2月5日(土)
ところ CiC ビル 5F

MILLENNIUM、記念の年、新千年紀の節目の“2000年”を世界中の人たちと祝おうと開催されました。富山在住の中国、韓国、インド、バングラディシュ、アメリカ、カナダ…等々100余名の参加者たちは、それぞれ楽しく交流し友情を深めました。

今回の交流会は、一緒に歌ったり体を動かしたりそして「non-alcohol」で参加型のパーティーを楽しみました。

観る

ほうらい
日本舞踊「蓬萊」を華やかに披露



花柳流師範 花柳源香さん

花柳源香さんは、当協会の日本伝統文化講座「日本舞踊」で講師としてご活躍のほか、多くのボランティア活動に参加しています。

体験する



魏さん(中国)と姜さん(韓国)

司会進行は「私たちにまかせて！」

食交流



円テーブルを囲んで、次々に出て来る料理を食べながら自国語で、また、流暢な日本語でと楽しく交流しました。

いっしょに歌おう



♪ 大海啊，故乡（海はふるさと）
指導 中国語講座受講生



♪ さくら さくら
指導 あんてぷりま



♪ 사랑해(愛してる)
指導 ハングル講座

民謡踊り



「みんなで輪になって踊りましょう」と「花笠音頭」の指導をする須沼富美子さん。

カラオケ

ギターを弾きながら「FRIENDLY NEIGHBORHOOD」を歌う富山第一高校留学生のネーサン・マサスさん（ニューヨーク州出身）。



ディスコ

パーティーの最後は賑やかにディスコで最高…？
チョット盛り上がり欠けたかな…。



中国伝統 健身功(練功)

中国を代表する伝統演劇・京劇の主演俳優、太極拳の指導者としてご活躍の陳健強さんの指導を受けて、みんなも健身功の体験をしました。

からだの内気を活発にする（からだを健康にする）健身功は、内臓や血行をよくするために行う。3つのポイントは(1)調息（呼吸）(2)調心（入静）(3)調身（姿勢）である。

複式呼吸に合わせながら、ゆっくりと柔らかな円を描くような動作を行う。



2000. 2. 8 ~ 2. 13

海外研修 マレーシア友好訪問

多民族国家マレーシア 街・自然・歴史 魅力の旅

窪田姉妹友好都市委員長を団長とする一行25名は、森林の国マレーシアを訪問しました。雪景色、路面凍結、激寒の富山から、気温34℃のマレーシアに着いた時は、地球の気候帯を肌で感じました。

異国情緒あふれる街並み、行きかう人々すべてが、マレー系、中国系、インド系と多民族国家マレーシアは、心を癒す大自然もいっぱいの魅力あふれる国でした。

エキゾチックな首都、クアラルンプールは、新旧・東西の交差する国際都市でした。マラッカでは、世紀を越えた限りない歴史のドラマにもふれてその歴史の重みを感じました。

また、マレーシア日本語協会、富山市内企業のマレーシア工場を訪問しました。この訪問をきっかけに、交流の輪が広がり、友好の絆を深めて新たなよい関係が築いていけることを期待しています。観たり、買ったり、食したり、感じたり、交流したりと楽しい思い出いっぱいの研修旅行でした。

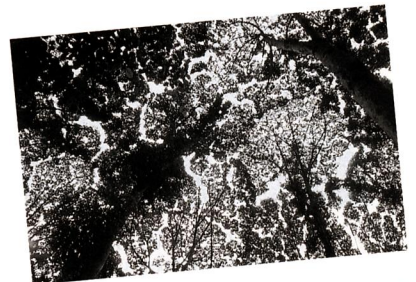


1650年に建てられたオランダ建築様式のキリスト教会。タイル画の「最後の晩餐」が飾られている

MALAYSIA



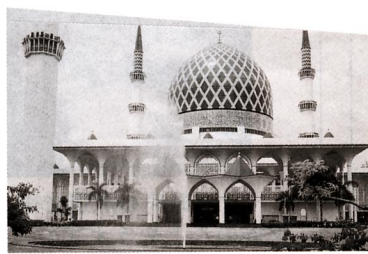
世界で4番目に高いKL（クアラルンプール）タワー



「林冠」森林浴を楽しみながら高く天を仰ぐと木々の隙間から暗い樹林に太陽の光が細く長く射し込んで来る



永久平和を誓う「国家記念碑」



回教寺院 シャアラム ブルーモスク



272段の石段を登りきると、ヒンズー教の聖地「バツ洞窟」がある



熱帯雨林の木々の落葉を踏んで森林浴

Selamat Datang Ke JLSM
ようこそ マレーシア日本語協会へ

○マレーシア日本語教会

- ・1968年設立 日本語及び日本文化の教育を行っている。
- ・生徒170名、先生10名（日本人2名）初級・中級（各週2日、1日2時間、年176時間）
- ・授業料年間1100MR（約30,000円）教材は日本のものを使用している。
- ・仕事の関係で欠席者や途中退学者が多いのが悩みである。
- ・3年前から年1回日本を訪問して交流を行っている。
…宮崎県佐土原町、滋賀県彦根市、千葉県浦安市
- ・リー会長「この訪問をきっかけに絆が深まり、両協会がより良い関係を築いていけることを期待します」…と。



立山オートマシーンマレーシア

○立山オートマシーンマレーシア

- ・1989年11月設立 マレーシア、シンガポール、タイ、インドネシアなど東南アジアを主な商圏としている。
- ・従業員は機械関係150名（日本人9名）電子関係60名（日本人2名）創業以来の従業員は1名であり、マレーシアは労働力の移動が激しい（ジョブホップ）。
- ・マレーシア経済は、2年前の不況を乗り越え現在は回復しており、電子関係は良好である（建設、不動産は悪い）。当社も1999年は、3割程売上げが伸びた。
- ・従業員にイスラム教の者が多く、礼拝等宗教上の慣習に配慮している。しかし、断食の時期には労働効率が落ちるのが悩みである。
- ・当社でも日本語教育をしている。現在25名で週1回授業をしている。
- ・高村元二社長「創業以来10年程マレーシアにいるが、外国人が自動車を運転できるなどシンガポールと共に安全な国である。災害もなく暖かく住み良い国である。また、家族同伴の社員が多いが、近くに日本人学校（小・中学生1400名）がある」…と。



International Speech Academyクラス



講師
カチョール・
イステヴァン氏
立山システム研究所課長

1月18日
当センター

“ヨーロッパとハンガリーの今日”並びに“コンピューターは私の仕事とホビーです”という提題で、講話を聴いた後、これらの関連問題について座談並びに討論をしました。



講師
福井 聡氏
北陸電力柳支店長室
技術担当副課長

3月21日
当センター

“日本における電力供給について”という提題で、日本の電源開発事情と消費状況、並びに環境保護や電力部分自由化の諸問題について紹介と提案がありました。そして、それらについて討議をしました。

これらの講話・座談・討論などすべて英語で行われました。

中国語集中講座

気楽に語ろう やさしい会話サロン



講師：会話助言者
王 昕氏
富山大学留学生

当センター

やさしい話題で自由に話し合える、中国語の談話クラスとして、「すべて自分のもっている語彙力で表現してみよう」と、5回シリーズで開催されました。

2月12日(土) 2月19日(土) 3月4日(土) 3月11日(土)
3月18日(土) の 午前10時から12時まで。
お茶とお菓子で、楽しくなごやかな雰囲気でお話し合
い学び合いました。受講無料(但し茶、菓子代500円)

国際教養委員会

モジ市へ古本を送ろう

1999年10月、富山市とモジ・ダス・クルーゼス市姉妹都市提携20周年記念式典出席の訪問団の方々より「日本語の本がほしい」と依頼がありました。そこで「お知らせひろば」でご協力をお願いいたしましたところ、文庫本、ミステリー、エッセー、小説など多数が寄せられました。みなさまのご好意を「モジ文化協会」へ送りました。到着は6月頃の予定です。

日本伝統文化講座



座 禅

2月20日
海岸寺

留学生や市内在住の外国人ら30人が参加して、琴の演奏や座禅を体験しました。

「春の姿」や「ちどり」の演奏を聞いた後、琴に指を当てたり触れたりもしました。「私は、以前から座禅に関心があり自宅でも行っている。」という、カナダ出身のブルース アームストロングさんは、正しい姿勢も板に付いて、お手本を示してみせました。

参加者たちは、住職から心得や、足の組み方などの説明を受けて座禅の初体験をしました。僧侶に姿勢を正されたり警策で肩を打たれたりしながらも「精神統一」。

地図で歩く世界の旅

ラオス人民民主共和国



旅の案内人
サイボン・
ブンシューさん
富山大学大学院留学生

1月30日
当センター

ラオス政府の派遣で来日したというサイボンさんは、家族のことやラオスの人々の生活のことをスライドや写真を見せながら紹介されました。「ラオスは、貧しい国で日本に比べると食べ物種類も少なくあまりおいしいものもない。」と。また、「ラオスに帰国後は、学校の教師としてラオスのために頑張りたい。」と、民族衣装でラオスに思いを馳せながらラオスを案内されました。

地域交流委員会

チャリティーバザー

「台湾トルコ大地震被災者救援に協力しましょう」と、チャリティーバザーが行われました。

タオル、石けん等の日用品や手芸品、アクセサリ、置物など1000点余りの提供品があり、20,000円余りの売上げがありました。

この会員たちからのあたたかい善意は、日本赤十字社を通じて贈りました。



2月19日
当センター

ボランティア委員会

「イスラム世界を知る」

講師 富山医科薬科大学医学部助教授
上村 清氏

国際協力事業団専門官として、昭和58年から平成6年にかけてイスラム社会のパキスタンを蚊媒疾病の現地調査のため、15回訪問した時の体験談などをスライドを交えて紹介されました。

「経済至上主義の風土に育った日本人には、イスラム社会での異文化の理解は、カルチャーショックが大きい。

パキスタンでは、男女別の戒律が厳しく小学校の時から男女別々の教室で女性は女性の先生から教わる。日本の感覚で男性の医師が女性を診察すると女性に大変なショックを与える。

上下水道の不備、生活廃水の処理が不十分のため、不衛生であり、蚊の媒介などでマラリア、デング熱などの疾病が多く死亡率も高い。どこの家でも子沢山で子供は財産であり、働き手である。飲酒等は禁止であり、常に宗教が先行して存在し、それを包む形で国家がある。」などと異文化を理解する重要性についてお話しされました。

「教育におけるボランティアの役割」

講師 富山市立芝園中学校長
当協会理事 廣田 憲一氏

富山は、売薬業も要因と考えられる好学の風土を大切にしている。四書五経から始まった教育も欧米に追いつくための教育へと移り変わり、教育の発展が経済の発展をもたらし、経済の発展がまた教育を発展させた。そして、知識・理解中心から解決能力重視となってきた。また、核家族化、経済力重視を反映して、仕事一筋となり家庭教育は低下してきている。

最近では、各学校で「すこやかふれあい事業」として、校下の美化運動、老人家庭訪問など福祉体験や資源回収などを行っている。生徒たちの自主性、主体性を尊重しながらボランティア活動に取り組み、自分たちが役立っているという存在感和その価値を自覚してほしい。

今後は、学校で用意されたものから、自発的なものが出て来ることを望んでいる。受験勉強重視による社会体験不足は、心の豊かさを不足させるように思える。

お知らせひろば

お申し込み・お問合せは当協会まで
TEL 442-1109 FAX 442-3807平成12年度
富山市民国際交流協会総会

と き 5月10日(水) 14時

ところ 国際会議場2F 多目的会議室

- ・総会
- ・記念講演

講 師 田村太郎氏(多文化共生センター代表)

テーマ 「地域国際化とボランティア」

1995年1月17日の阪神淡路大震災で、在住外国人は、日本人とはまた異なる困難に直面しました。1月22日に「外国人地震情報センター」を開設し支援を行いました。その後、国籍や文化、習慣などの違いを認め合い、互いに尊重しあう「多文化共生社会」の実現を目指して、1995年10月「多文化共生センター」へ発展改称しました。

講師は、このようにして発足した「多文化共生センター」の事務局長をつとめ、現在は代表としてご活躍していらっしゃいます。

在住外国人のかかえている問題点「言葉の壁」「心の壁」「制度の壁」といった、三つの壁に囲まれている在住外国人と地域のかかわり方や異文化との共生について、ボランティアの役割などをお話していただく予定です。

- ・交流レセプション 16時30分

全日空ホテル 3F 参加会費 3,000円

※多くのみなさんの出席をお待ちしております。

受講者募集！ 研修場所 当センター

(平成12年度講座開講予定)

・会員は受講料が無料の講座です

国際教養委員会

講座クラス名	研修実施 日・時
1. 海外旅行・視察英会話入門クラス	毎月第2水曜日 18:30~20:00
2. 楽しく学ぼう英語クラス	毎月第2土曜日 10:00~13:00
3. 日本文化を英語で語ろうクラス	毎月第4水曜日 1限 17:00~18:00 2限 18:00~19:00
4. 日本語ボランティア入門クラス	毎週第1土曜日 10:00~12:00
5. 通訳・ガイド養成実践クラス	毎月第4土曜日 10:00~12:00
6. 通訳・ガイド養成実践クラス	毎月第4水曜日 10:00~12:00
7. 英語で意見発表・それを聴くクラス	毎月第3火曜日 18:30~20:00
8. 中国日常会話入門クラス	(月2回)毎月第1及び第3土曜日 14:00~16:00
9. 中国日常会話初級クラス	毎月第3土曜日 14:00~16:00
10. 実用中国語検定同学クラス	毎月第1土曜日 14:00~16:00
11. やさしい中国語会話サロンクラス	毎月第3土曜日 10:00~12:00
12. ロシア語入門会話クラス	毎月第2土曜日 13:00~15:00
13. 多言語文化交流サークル	毎月第1土曜日 10:00~12:00
14. 国際教養委員会合同研修会	随 時

・受講料が必要な講座です

講 座	実施時期および日時	年 間 授 業 料	
		会 員	非会員
中 国 語	毎週金曜日 18:30~20:00 (5/12~全35回 夏期、年末年始休み)	5,000円	8,000円
ハングル語	毎週金曜日 18:30~20:10 (5/12~全35回 夏期、年末年始休み)	5,000円	8,000円
日 本 語	毎週火曜日 19:00~20:30 (5/9~全36回 夏期、年末年始休み)	5,000円	8,000円

会員のみなさまへ〈会費納入〉のお願い

○会費 1口 個人3,000円 法人10,000円

○納入方法

- ・当センター窓口(総会会場でも受け付けます)
- ・振込の場合は 北陸銀行市役所出張所
口座 富山市民国際交流協会
普通預金 No.4076440

また、会員のみなさまには、協会の方へお立ち寄りの際に、納入いただければ幸いです。

富山コンベンションビューロー設立10周年記念講演 『わが人生の岐路ー日米の架け橋として』

講師 ワイオミング州デンバー
日本総領事館名誉総領事
マリコ・テラサキ・ミラー女史

日本人の父とアメリカ人の母を持つミラーさんは、外交官だった父、寺崎英成氏が真珠湾攻撃をめぐり、娘の名前をとって日本に打電した暗号電文「マリコ」



2月1日 富山国際会議場

で知られています。ミラーさんは戦時に日本や中国で見た悲惨さや、自分の半生を中心に「日米のきずながより深まってほしい」と講演されました。

NGO列島縦断フォーラムin富山

実行委員会では「私たちが変える、地域と世界」富山にNPO大集合！の趣旨で開催しました。

県内外のNGO（非政府組織）やNPO（非営利活動団体）の関係者ら約150人が講演や分科会を通じてNGO、NPOについて理解を深めました。「これからの国際協力」「アジアで“生きる力”を学んだ」「私たちの環境」「災害ボランティアネットワーク」「地域を元気にするエコマネー」「思いを実現、NPOは市民起業だ」の6分科会に分かれ、それぞれ興味のあるテーマを選び参加して意見交換しました。



2月27日
サンシップとやま

分科会「これからの国際協力」
カンボジア出身パイ・モニル氏(左から3番目)を迎えて

第13回国際交流

ひなまつりパーティー

県婦翔会では、ネパール、ロシア、インドネシア、韓国など20ヶ国の留学生や県内に



2月27日 とやま自遊館

在住の外国人ら170人と同会のメンバーら250人が交流して友情を深めました。茶道や折り紙、お手玉など日本の伝統文化を体験したり、ステージでは韓国の研修生らによる「こきりこ節」などのアトラクションが繰り広げられ、料理を囲んだり歓談したりと一緒に楽しみました。

交流あれこれ

飲茶料理講習 & 中国朋友と話そう

富山・中国ネットワークでは、恒例の「中国朋友と話そう」の8回目の今回は、中国の食文化にも触れてもらおうと、飲茶の料理講習も実施しました。富山在住の中国人や日本人60人が参加して、中国人



3月5日 市立奥田公民館

主婦、銭輝さんの指導でエビシューマイ、もち米肉団子、ごま団子などを作りました。出来たての飲茶料理を味わいながら、日ごろ学習した中国語で話すなど、たのしく交流しました。

息子にとっての貴重な体験

協会会員 原 和 子さん

外務省・国際協力事業団（JICA）による「21世紀のための友情計画」でマレーシアより22名の青年たちが富山県に来ました。我が家でも2月25日～27日のホームステイを受け入れました。ガッシリしたモハメッド・ファイザル・ビンアブドゥラさんがやって来ました。息子の亮は、すぐにファイザルさんと仲よしくな



って一緒にミニ四駆を作りました。ファイザルさんは、ほとんど日本語ができなかったのですが息子は、一生懸命作り方を教え、二人は楽しそうにコミュニケーションをとっていました。息子にとっては貴重な体験だったと思います。

編集後記

当協会の「海外研修“マレーシア友好訪問”の旅」に参加した中で大きな感動がありました。マレーシアで許業権さんたちに会えたことです。彼等は勤務地のシンガポールなどから、4人で私たちの宿泊しているホテルへ訪ねて来てくれました。

許君たちは、富山大学の留学生でした。私たちは、お母さんだったり、お姉さんのようになったりしながら交流をしました。2年前、卒業してマレーシアへ帰って行きました。

今回、マレーシア訪問の出発の前に「マレーシアへ行くよ…」と連絡しました。また、マレーシアへ着いてからも…。でも、会いに来てくれるかな？と、期待は少々でした。私たちは、もう、マレーシア最後の日になって荷作りも終わりました。

彼等が週末の休暇を利用して訪ねて来てくれたのです。みんな富山に居た時よりも遅くなって、少し大人の男になったように思えました。息子たちに会えたように思え、大切な友だちと抱き合って再会を喜びました。私は、涙を止められませんでした。もっと、あれもこれも話したい、聞きたい思いでした。その間に時間は倍の速度で進んでいったように感じました。「力が付いたら、きっと日本へ行きたい。」と目をかがやかせて話してくれました。

「じゃー！」「See you again.」

日本へ来たら、ぜひ、たずねてきてほしい。

この海外研修で、ささやかな草の根の交流からも世界中に友だちの輪が広がっていくことを信じ感動しました。これからも、国際交流、理解、協力を目指して、共生と相互理解を深めるためにも、さらに、活動を進めていきたいものです。

“世界中に友達がいれば…”

Let's make many friends in the world!

広報委員長 岡田昌代